

品井沼駅が生まれ変わりました

3月1日、品井沼駅前において新駅舎落成記念式が開催されました。
当日は、晴天のもと、新駅舎の完成を心待ちにしていた関係者や多くの地域住民の方々に参加いただき、その利用開始を祝いました。
新駅舎の待合室には、記念式において東日本旅客鉄道株式会社仙台支社の方々に贈呈された、松島第五幼稚園の園児たちが作成した記念品が展示されています。
駅利用の際には是非ご覧になってください。



松島海岸駅の安全祈願祭が行われました

3月16日、JR仙石線松島海岸駅前において、バリアフリー設備新設他工事の安全祈願祭が行われ、事業主である東日本旅客鉄道株式会社の坂井研究仙台支社長をはじめ、工事関係者や町関係者が出席し、工事の安全を祈願しました。
新駅舎内にはエレベーターや多目的トイレが設置され、バリアフリー化が図られます。なお、完成は令和3年度末の予定です。



特集 松島湾 アマモ・アカモク再生プロジェクト

主催：特定非営利活動法人 環境生態工学研究所

○活動の様子
8月4日の「橋の日」にあわせて、福浦橋でアマモが育ちやすい環境（砂泥域）の紹介や、その役割についてのパネルを展示し、1,500個の砂団子を海に投入しました。



▲投げ入れた砂団子



▲アカモクが根付きやすくなるための石（願い石）

▲パネルを設置し、参加者へ活動の意義を説明しました

松島湾を代表する海草・海藻であるアマモ・アカモクの藻場は「海のゆりかご」と呼ばれ、多様な生物の生息場所となります。また、水質を良くする役割もありません。
松島湾に大きく広がっていた藻場は、東日本大震災の影響により、その約99%が失われ、9年が経過した現在でも30%程度しか回復していません。
藻場を再生させるには、津波の影響で泥地となってしまった海底の環境を、アマモやアカモクが育ちやすい環境に改善する必要があります。



▲海の上にマトを設置し、そこにめがけて投入しました

また、活動には松島を観光で訪れるたくさんの方々の参加もありました。

11月3日、海底をアカモクの生育に適した岩礁に近づけることを目的として、福浦橋で1,500個の願い石を海に投入しました。
願い石の裏には参加者がそれぞれの願い事を書き込みました。



▲清掃活動の様子



▲藻場再生活動の説明を聞く様子

11月24日、清掃ツアーを行いました。37名の参加者は福浦島をはじめ海岸沿いの清掃活動と、願い石を投げ入れました。

○取り組みの成果

とてもたくさんの方々にご参加いただいたプロジェクトですが、実際に回復した藻場はほんのわずかです。福浦橋の決では、水が澄んでいると、アマモやアカモクを見ることが出来ます。とても小さな面積ですが、硫化水素という生き物にとって有害な成分を抑える効果や、そこに集まってくる小魚やエビの仲間、ナマコなどを確認しています。環境に与える効果を確認しながら進めるといったこのプロジェクトの特徴です。
この活動は、大きな機械や大規模な予算を用いるのではなく、松島を訪れる誰もが参加して、楽しく、ゆっくりと長く続く自然回復活動を目指します。

今年も福浦橋での活動を行う予定です。砂団子、願い石ひとつ分環境が良くなりますので、ぜひご参加ください。詳細は、今後の広報まっしまでお知らせします。

3月1日、7日、19日に松島高等学校、松島中学校、町内各小学校で卒業式が行われました。

新型コロナウイルスの影響で出席者全員にマスク着用が義務付けられるなど、厳戒態勢の中での卒業式でしたが、卒業生は「卒業式が行われるか不安でしたが無事にできてよかった」と、学び舎での最後の思い出づくりができたことを嬉しそうに話していました。

また、13日に町内各幼稚園と高城保育所分園で卒園式が、14日に松島・高城・磯崎保育所で修了式が行われました。



世界で最も美しい湾クラブ

フランスのヴァンヌ市に本部を置くNGO（非政府組織）で、コネスコの支援を受けている団体です。湾を活用した観光振興や、湾の環境保全などに関する取り組みを行っており、令和元年10月現在、27の国と地域の46湾が加盟しています。

松島湾は平成25年12月に日本で最初の加盟湾となりました。松島湾は、日本三景松島の美しい景観だけではなく、牡蠣などの豊かな海の幸、そして松島の人々が湾を守りながら生活を営んでいる姿が高い評価を受けました。

日本国内では富山湾（富山県）、駿河湾（静岡県）、宮津湾・伊根湾（京都府）、九十九島湾（長崎県）が加盟しています。国別の加盟湾数は本部を置くフランスで次いで2番目に多く、令和元年10月には日本で初めて世界会議が富山湾で開催されました。



○記事のまとめ

このような方式は全国での実施例がないため「松島方式」として情報を発信していきたいと思えます。